

1 学校の教育目標

- (1) 知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさを身につけた生徒の育成
- (2) 人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな生徒の育成
- (3) ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成

2 本年度の重点課題

- (1) 学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める。
 - ①主体的な学習活動を促進し、協同学習の理念を活かしてともに学ぶ態度を育む。
 - ②学習規律を徹底させ、授業改善に自ら取り組む学習集団を育てる。
 - ③家庭学習と授業をつなぎ学習内容の確実な定着と学びに向かう力を高める。
- (2) 温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める。
 - ①想像力と共感性を伸ばし、多くの人の立場で考え、自他共に大切にしようとする態度を養う。
 - ②生徒会活動や短学活を活かし、日々の生活を振り返り改善できる手立てを講じる。
 - ③生徒自ら楽しめる活動を企画することや、ふるさとに貢献できる活動に取り組ませる。
- (3) 保護者や専門機関、地域社会等との連携を深め、長期欠席が生じないよう努める。
 - ①長期欠席が生じないよう保護者との連携を大切にし、小学校や地域との連携を深め、早期に丁寧な対応を心がける。
教育相談員・SC・専門機関等との連携を充実させ、組織的・的確な支援対策を講じる。
 - ②仲間づくりを充実させ、SSTやhyper-QU等を活用して個に応じた支援体制の強化を図る。
 - ③伝統芸能など地域の教育的資源を生かし、誇りと自信につなげる。

3 評価項目の達成状況について（教職員の自己評価より）

- A…十分達成されている（4点） B…達成されている（3点）
C…取り組まれているが成果が十分でない（2点） D…取組が不十分である（1点）

(1) 学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める

自己評価 2. 9 （昨年度 3. 2） 関係者評価 A

○主な意見（教職員）

- ・協同の理念を基盤とした授業づくりの取組が広がり、落ち着いた学習態度が定着してきた。生徒による「協同学習は有意義」との回答が全学年90%以上あり、全体的に学習の取組は良好である。
- ・個別に課題を有する生徒への手立てや、学校体制としての協同学習の推進の継続が必要である。

★今後の取り組み

- ・協同の理念についての共通理解を図る。また、各教科の特質を踏まえ、指示待ちの態度でなく、自ら課題を見つけ解決するような、より主体的に学習に向かう態度の育成を図る。今後も家庭での学習のあり方を含めて、学びの姿勢を総合的に指導していく。

【関係者評価】（学校運営協議会委員の提言）

- ・授業研究が積み重ねられ、協同学習が浸透してきて全体が落ち着いた状況で学習できている。家庭学習や学習意欲に課題のある生徒は根気強く指導して欲しい。未経験な先生、不慣れな先生に共通理解を図る取り組みが必要。

(2) 温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める

自己評価 2. 9 (昨年度 3. 2) 関係者評価 B

○主な意見 (教職員)

- ・今年度もコロナ禍であったが、生徒会を中心にできる取組を工夫して生徒同士の関係をつくった。
- ・指標の「部活動に積極的参加」した生徒は90%を超えたが、「学校は楽しい」生徒は目標に達していない。学年によっては人間関係構築が不十分な事例がいくつか見られた。
- ・職員アンケートでの評価コメントが多く、取り組みの意識は高い。

★今後の取り組み

- ・各クラスで行っている取り組みを継続し新型コロナの影響下でのなかまづくりと、個々の生徒の学校づくりへの参画の実感と意欲の向上を図る。

【関係者評価】(学校運営協議会委員の提言)

- ・コロナ禍で行事等が縮小、変更を余儀なくされながらも生徒会役員や学級役員がリードし意欲的に取り組んでいる。

(3) 保護者や専門機関、地域社会等との連携を深め、長期欠席が生じないように努める

自己評価 2. 9 (昨年度 3. 1) 関係者評価 B

○主な意見 (教職員)

- ・長期欠席者が多く、不登校生徒数が掲げた指標を超えてしまった。ただ、個別の支援会議を多く持つなど保護者や他機関との連携の取り組みを細やかに行い、教室復帰した生徒も複数ある。
- ・郷土芸能学習は中止したが社会人講話などコロナ対策の中で可能な限り実施した。町教委アンケート「湯梨浜町が好き」の肯定的回答は92.6%だった。

★今後の取り組み

- ・学習面、なかまづくり、不登校対策など含めて、個に応じた細やかな指導を行うことを継続していく。その中で組織的な取り組みを行い、教員個人の負担感を軽減しながら進める。

【関係者評価】(学校運営協議会委員の提言)

- ・長期欠席、不登校生徒には、今後も連携を深めた取り組みの継続すること。

4 全体的な評価 (教職員による評価、学校運営協議会委員の提言を合わせて)

結果 B

生徒や地域の実態を踏まえた教育目標、計画の設定、実施により、落ち着いた学習態度であり、学年が上がるにつれて指標の数値も向上するなど、多くの生徒が学校生活に適応し成長が感じられる。コロナ禍にあつて計画どおりにはいかなかったが、規模を縮小したり内容を工夫したりして実施した。一方、集団に馴染めず不登校となった生徒が一定数あり、支援会議などより細やかな対応を進める必要がある。

5 評価をとおして明らかになった成果と課題（教職員による評価、学校運営協議会委員の提言より）

コロナ禍にあって度重なる教育計画の変更が余儀なくされる中、教員も生徒自身も工夫しながら人間関係の構築、挑戦する態度の育成を進めることができた。また、協同学習の理念にもとづく授業研究の効果は大きく、落ち着いて学習に取り組める状況にあると評価された。

今後は、コロナ禍にあって、より温かな人間関係をつくり、楽しい学校の雰囲気をつくれるよう、生徒のアイデアを活かし、達成感を持たせる指導を工夫する必要がある。

また、学習面、なかまづくり、不登校対策など含めて、個に応じた細やかな指導を行うことを継続する必要がある。その際、組織的な取り組みを行い、教員個人の負担感を軽減しながら進める必要がある。

授業研究については、理念の研修を効果的、計画的に配置して、協同学習についての共通理解と共通実践を図り、学校全体での取り組みを継続・発展させることが大切。